

アーティスト・イン・ミュージアム横浜 2007 OFF SITE

平野 薫

Kaoru Hirano

sullen 展

Ruoh Magota / Daisuke Nakaigawa / Yuta Kikawada

「OFF SITE」は横浜美術館の滞在制作プログラム「アーティスト・イン・ミュージアム横浜」の公募プロジェクトです。「OFF SITE (オフサイト)」には「場を離れて」という意味があります。アーティストが通常の制作場所を離れ、街やそこにすむ人とかかわりの中から作品を制作すること、また、ギャラリーなど展示のために用意された空間を離れ、新たな場とむきあうこと。本プロジェクトは「横浜」をキーワードに、アーティストの表現に次なる展開をもたらすと同時に、場と人とアートとの新たな出会いを探ることを目的としています。今回の公募では2007年11月から12月にかけて約1ヶ月の募集期間中、全国から49組の応募がありました。曾我部昌史（建築家／神奈川大学教授、みかんぐみ共同主宰）、奈良美智（美術作家）、三ツ山一志（横浜美術館副館長）の3名からなる審査委員会が2007年12月末に開かれ、2組のアーティストが選出されました。「OFF SITE 2007 平野薫 / sullen」展は、この「OFF SITE 2007」参加アーティストとなった平野薫とsullenの約2ヶ月にわたる滞在制作の成果を紹介するものです。

平野薫（ひらの・かおる）は自身や他者が身につけていた衣服などを糸状にほぐし、再構成する繊細なインスタレーションで知られています。もとはシャツや下着など、機能をもって存在していたそれらは、糸くずとなってもなお、衣服であった時の記憶を内包しています。平野は膨大な時間をかけてそれらを再びつなぎ、形にすることで「肖像のようなもの」をつくりだします。「横浜」というテーマのもとに制作された今回の作品で、平野は初めて衣類の提供者のプロフィール（横浜に住む母と子）を明らかにします。母と子、それぞれの衣類を1本の糸にし、組み合わせることで彼女は、新しい形の「母子像」を提示します。本展では、滞在中に制作した新作とともに、平野がこれまで発表してきた作品数点を同時に紹介します。

sullen（サレン）は、場所や建物、人、物の関係をつくる装置やしかけによって空間を変容させるインスタレーションを制作しています。建物の空きスペースや廃校となった小学校の教室などを舞台に、訪れた人の想像力を刺激するような提案を行います。本展では、滞在中に制作したオブジェやドローイング、映像などを紹介するほか、時間ごとに霧笛を鳴らしたり、日替わりイベントを行うなど、鑑賞者とともに横浜のイメージについて考える「ニセ横浜会議準備室」を展開します。

体感!! アートの生まれる現場「アーティスト・イン・ミュージアム横浜」

アーティスト・イン・ミュージアム横浜 (AIMY) は、アーティストが横浜美術館を中心に長期滞在しながら作品を制作し、様々な活動を行う LIVE 感覚満載のアートプログラムです。

当館ホームページ「AIMY+NAP ブログ」にて、滞在制作の様子をはじめ、これまでの AIMY 参加アーティストの活動をご覧いただけます。

<http://www.yaf.or.jp/yama/>

2008.3/15.sat — 26.wed

10:00-18:00 (入場は17:30まで) 横浜美術館アートギャラリー1、2、グランドギャラリー

料金: 100円 (ワンドリンク付き)
休館日: 3/21 (金)

主催: 横浜美術館 (横浜市芸術文化振興財団)
助成: 財団法人地域創造

横浜美術館



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。